

平成22年度 秋冬作野菜花き関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成22年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成22年7月21日(木)にANAクラウンプラザホテル金沢において開催された。

この検討会には、試験場関係者23名、委託関係者14名ほか、計52名の参集を得て、除草剤17薬剤(46点)、

生育調節剤7薬剤(22点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成22年度 秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 野菜関係 除草剤

注) アンダーラインは新たに判定された部分を示す

薬剤名 有効成分および 含有率(%) (委託者)	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容
1. AH-01 液 ク・ルホシネートPナトリウム 塩:11.5% [4明治製菓 北興化学工業]	ニンニク	適用性 新規	1青森 石川植防 (2)	ねらい 生育期、畦間茎葉散布 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生(広葉) 全般 多年生(科) - 多年生(広葉) - その他 設計 薬量 <水量> /10a 畦間雑草茎葉散布 ニンニク生育期・雑草生育期 300mL <100L> 300mL <150L> 500mL <100L> 対) バス液剤 ニンニク生育期・雑草生育期 300mL <100L>	・雑草の草丈30cm以下 の時期に散布 する ・作物にかからない ように散布する ・展着剤不要	継	継) ・効果、薬害の確認
2. AKD-7164 水和 剤:50% [7グ 叻ネショ]	ネギ	適用性 継続	植調研 南九州大 1鹿児島大隅 (3)	ねらい 定植後、全面土壌処理 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生(広葉) 全般(ワコガサを除く) 多年生(科) - 多年生(広葉) - その他 設計 薬量 <水量> /10a 全面土壌散布 生育期 雑草発生始期(定植1ヶ月後頃) 50g <100L> 75g <100L> 100g <100L> 150g <100L> 対) トリフナサイド 乳剤 定植後雑草発生前 300mL <100L>	・砂壌土以外の土壌 条件で検討する ・前処理剤との体系 処理で試験を行 う ・初科雑草に対する 効果をj確認する	実・ 継	実) [秋冬作、露地; 一年生雑草] ・ネギ 生育期(定植1ヶ月以降)、 雑草発生始期 ・全面土壌処理 (砂土、砂壌土を除く) ・100~150g<100L>/10a 継) ・50gでの効果、薬害の確認
	ネギ	適用性 継続	植調研 鳥取 園試 福岡 1鹿児島大隅 (4)	ねらい 生育期、畦間・株間土壌処理 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生(広葉) 全般(ワコガサを除く) 多年生(科) - 多年生(広葉) - その他 設計 薬量 <水量> /10a 土壌処理(畦間・株間処理) ネギ 生育期(草丈20~30cmを目安に)、雑草発生始期 100g <100L> 150g <100L> 200g <100L> 対) トリフナサイド 乳剤 定植後雑草発生前 300mL <100L>	・前処理剤との体系 処理で試験を行 う ・処理時の作物の葉 齢、草丈を記録 する ・ネギの 地際から 10cm程度の高さま で掛かるように散 布する ・初科雑草に対する 効果をj確認する	継	継) ・効果、薬害の確認
3. NC-622 液 ク・リネートナトリウム塩:48% [日産化学工業]	ニンニク	適用性 継続	1青森 和歌山 香川 (3)	ねらい 生育期、畦間茎葉処理 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生(広葉) 全般 多年生(科) - 多年生(広葉) - その他 設計 薬量 <水量> /10a 茎葉処理(生育期畦間処理) ニンニク生育期、雑草生育期 200mL <25L> 200mL <100L> 500mL <25L> 対) 一任	・雑草の草丈30cm以下 の時期に散布す る ・作物にかからない ように散布する ・散布水量25L/10a 処理は少量散布 剤を使用する ・展着剤不要	実	実) [秋冬作: 一年生雑草] ・ニンニク生育期、雑草生育期 ・畦間茎葉処理 ・200~500mL<25~100L>/10a (水量25~50Lは専用ノズルを使用 する) 注) ・雑草の草丈30cm以下で散布する ・作物に飛散しないように散布す る

A. 野菜関係 除草剤

注) アダプラインは新たに判定された部分を示す

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容
4. SSF-0692 油 メチルイソシアネート: 20.0% [バ イオロガ サイエン]	タマシ	適用性 新規	植調研 香川 福岡 豊前 佐賀 白石 目社試験 (5)	ねらい 対象 雑草 (1) 定植前、土壌くん蒸処理 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 - 設計 薬量 <水量> /10a 土壌くん蒸処理 定植前(植え付け21日前)、雑草発生前 30L (3mL/穴) 40L (4mL/穴) 対) 慣行	・30cm間隔のドリ 点注器を用いて、 深さ12～15cmに所 定量を注入する ・処理後被覆し、7～ 10日後にガス抜き をする	継	・効果、葉害の確認
5. TMZ-9911 液 30化メチル: 99% [アリスファサイエン]	サト (直 播)	適用性 継続	植調研 和歌山 福岡 (3)	ねらい 対象 雑草 (1) 播種前、土壌くん蒸処理 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 - 設計 薬量 <水量> /10a 被覆内3日間くん蒸処理 播種前、雑草発生前 10kg, 15kg, 20kg 対) バスミド 微粒剤 播種前、雑草発生前 30kg	・3日間くん蒸処理 後、被覆を除去、そ の7日後を目安に 耕起、さらに3日以 上放置し、定植す る ・土壌が過湿状態 での処理は避ける ・できるだけ地温の 高い時期(目安と して被覆無い温度 15℃以上)で処理 を行う	実 ・継	・[秋冬作、露地または施設: 一年生 雑草] ・播種前、雑草発生前 ・土壌くん蒸処理 ・10～20kg/10a 注) ・薬剤容器を被覆資材下に設置 し、くん蒸処理後3日間密閉、放 置する。処理4日後に被覆除去 し、処理後7日を目安に耕起す る。耕起4日以後に植付ける。 ・過湿条件では出芽抑制を生ずる ことがある 継) ・年次変動の確認
	ゴボウ	適用性 継続	植調研 岡山 (2)	ねらい 対象 雑草 (1) 播種前、土壌くん蒸処理 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 - 設計 薬量 <水量> /10a 被覆内3日間くん蒸処理 播種前、雑草発生前 10kg, 15kg, 20kg 対) クロニク 播種前、雑草発生前 30L (3mL)	・3日間くん蒸処理 後、被覆を除去、そ の7日後を目安に 耕起、さらに3日以 上放置し、定植す る ・土壌が過湿状態 での処理は避ける ・できるだけ地温の 高い時期(目安と して被覆無い温度 15℃以上)で処 理を行う	実	・[秋冬作、露地または施設: 一 年生雑草] ・播種前 雑草発生前 ・土壌くん蒸処理 ・10～20kg/10a 注) ・薬剤容器を被覆資材下に設置 し、くん蒸処理後3日間密閉、放 置する。処理4日後に被覆除去 し、処理後7日を目安に耕起す る。耕起4日以後に植付ける。 継) ・年次変動の確認
6. アロピザミド 水和 アロピザミド: 50% [サリナミ加日本]	ナス	適用性 継続	兵庫 淡路 福岡 (2)	ねらい 対象 雑草 (1) 定植後、全面土壌処理 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 (カヤツリガサ、サ科を除く) 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 - 設計 薬量 <水量> /10a 全面土壌処理 定植後・雑草発生前 200g <100L> 300g <100L> 対) 慣行薬剤	・1株雑草主体の圃 場で試験を行う	実	・[秋冬作、露地: 一年生雑草 (サ 科、カヤツリガサ科を除く)] ・定植後 雑草発生前 ・全面土壌処理 ・200～300g<100L>/10a 継) ・年次変動の確認
	タマシ	作用性 継続	兵庫 淡路 (1)	ねらい 対象 雑草 (1) 春期処理での効果、葉害確認 一年生(科) 全般 (スズリカサビを含む) 一年生広葉 全般 (サ科、カヤツリガサ科を除く) 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 - 設計 薬量 <水量> /10a 全面土壌処理 定植後雑草発生前 (2月を目処に) 300g <100L>, 600g <100L> 定植後雑草発生前 (3月を目処に) 300g <100L>, 600g <100L> 定植後雑草発生前 (4月を目処に) 300g <100L>, 600g <100L> 対) グラナックス水和剤 定植後雑草発生前 100g <100L>	・試験薬剤処理ま では慣行の雑草防 除を行う ・処理は収穫45日 前までにを行う	一	・(作用性)

B. 平成22年度 春夏作分 野菜関係 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等		備 考	判 定	判定内容
1. AK-01 液 グリサート(ソラベ) 87% 塩:41% 〔TAC普及会〕	ニンジン	適用性 継続	栃木 (1)	ねらい 対象 雑草	耕起前・全面茎葉散布 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 -	調査は効果完成後 (処理2週間後が 目安)に行い、調 査後に耕起、播種 を行う ・展着剤不要	-	・前回の判定どおり(実・継)
			設計 薬量 <水量> /10a	雑草茎葉処理 耕起前 雑草生育期 (草丈30cm以下) 250ml <100L> 500ml <100L> 対) 三共の草枯らし 耕起前 雑草生育期 (草丈30cm以下) 500ml <100L>				
	ニンジン	倍量茎書 継続	栃木 (1)	ねらい 対象 雑草	耕起7日前 一年生(科) - 一年生広葉 - 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 -	・耕起後は速やかに 播種を行う ・展着剤不要		
			設計 薬量 <水量> /10a	雑草茎葉処理 耕起7日前 500ml <100L> 1000ml <100L> (倍量区)				
2. HCW-201 フォアブル DCMU:50% 〔*保土谷UPL 北興化学工業〕	ヤマノイモ	適用性 新規	鹿児島 熊本 (1)	ねらい 対象 雑草	畦間、茎葉兼土壌処理 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 -	・必要に応じて、植 付後土壌処理剤を 散布する ・雑草草丈15cm以下 で処理を行う	-	・前回の判定どおり(継)
			設計 薬量 <水量> /10a	畦間処理、茎葉兼土壌処理 生育期、雑草生育初期 100ml <100L> 150ml <100L> 200ml <100L> 対) ロックス水和剤 ヤマノイモ生育期、雑草生育初期 100g <100L>				
3. SL-122 顆粒水和 フナジ・オブP:7% ニコロ:30% 〔石原産業〕	ニンジン	適用性 新規	島根 (1)	ねらい 対象 雑草	播種後出芽前、全面土壌処理 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 -	・適湿土壌条件下で処 理を行う ・展着剤不要	-	・前回の判定どおり(継)
			設計 薬量 <水量> /10a	全面土壌処理 ニンジン播種後出芽前、雑草発生前 170g <100L> 250g <100L> 300g <100L> 330g <100L> 対) ロックス水和剤 ニンジン播種後出芽前 150g <100L>				
4. ZK-122 液 グリサート(ソラベ) 87% 塩:44.7% 〔シンジエンタージャパン〕	アスパラガス	適用性 継続	香川 (1)	ねらい 対象 雑草	春期収穫打ち切り後、萌芽前 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 全般 多年生広葉 全般 その他 スギナ	・散布前に萌芽して いる若茎は除去す る ・散布水量25L/処理 は少量散布用ノ ズルを使用する ・展着剤不要	-	・前回の判定どおり(実・継)
			設計 薬量 <水量> /10a	茎葉処理 春期収穫打ち切り後、萌芽前、 雑草生育期(草丈30cm以下) 500ml <25L> 500ml <100L> 1000ml <25L>				
5. フカロー乳 フカロー乳:43% 〔*日産化学工業 日本農業〕	ブロッコリー	適用性 新規	山形園試 (1)	ねらい 対象 雑草	定植後、全面土壌処理 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) - 多年生広葉 - その他 -	・適湿土壌条件下で処 理を行う ・定植後すみやかに 処理する	-	・前回の判定どおり(継)
			設計 薬量 <水量> /10a	全面土壌処理 定植後、雑草発生前 150ml <100L> 200ml <100L> 対) 一任				

C. 花き関係 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容
1. HG-1010 液 既知化合物:41.0% [ハート]	カイブツ・カイ ブキ	適用性 新規	関西G研 (1)	ねらい	・樹にかからないよ うに散布する ・展着剤不要	継 (継) ・効果、薬害の確認	
				対象 雑草			樹冠下雑草茎葉処理 一年生(株) 全般 一年生広葉 全般 多年生(株) - 多年生広葉 -
				設計 薬量 <水量> /10a			樹冠下雑草茎葉処理 雑草生育期(草丈30cm以下) 500mL/10a <100L/10a> 750mL/10a <100L/10a> 1000mL/10a <100L/10a>
	サザンカ	適用性 新規	新中国G研 (1)	ねらい	・樹にかからないよ うに散布する ・展着剤不要		
				対象 雑草			樹冠下雑草茎葉処理 一年生(株) 全般 一年生広葉 全般 多年生(株) - 多年生広葉 -
				設計 薬量 <水量> /10a			樹冠下雑草茎葉処理 雑草生育期(草丈30cm以下) 500mL/10a <100L/10a> 750mL/10a <100L/10a> 1000mL/10a <100L/10a>
ツツジ・サ サキ	適用性 新規	新中国G研 (1)	ねらい	・樹にかからないよ うに散布する ・展着剤不要			
			対象 雑草		樹冠下雑草茎葉処理 一年生(株) 全般 一年生広葉 全般 多年生(株) - 多年生広葉 -		
			設計 薬量 <水量> /10a		樹冠下雑草茎葉処理 雑草生育期(草丈30cm以下) 500mL/10a <100L/10a> 750mL/10a <100L/10a> 1000mL/10a <100L/10a>		

D. 平成22年度 春夏作分 花き関係 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容	
1. YF-65L 液 ジクワット:7.0% N-ラコト:5.0% 〔シンジエンタージャパン〕	カーネーション	適用性 継続	長崎 (1)	ねらい	・雑草の草丈20cm以下 の時期に散布する ・作物に飛散しない ように散布する	一	・前回の判定どおり(実)	
				対象 雑草				畦間茎葉処理 カーネーション生育期 雑草生育期
								一年生(株) 全般
								一年生広葉 全般
								多年生(株) -
								多年生広葉 -
								その他
				設計 薬量 (水量) /10a				畦間茎葉処理 カーネーション生育期 雑草生育期 600ml <100L> 600ml <150L> 1000ml <100L>

E. 野菜関係 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容
1. AKD-8151(L) 液 1-ナフチン酢酸ナトリウ ム:0.2% 〔アグロネージャ〕	トマト	適用性 継続	静岡 温室農協 南九州大 (3)	ねらい	果実肥大、ネット形成促進	・果実品質への影響 を確認する	実 [果実肥大及びネット形成促進] ・縦ネット発生期～横ネット発生期 ・1000～4000倍<100～200mL/株> ・2回以内 ・株散布
				設計 薬量 (水量) /10a	株散布 縦ネット～横ネット発生期(1回) 3000倍 <100～200mL/株> 4000倍 <100～200mL/株> 縦ネット及び横ネット発生期(2回) 3000倍 <100～200mL/株> 4000倍 <100～200mL/株> 対) アグランド 液剤 株散布 縦ネット～横ネット発生期(1回) 2000倍 <100～200mL/株>		

F. 花き関係 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容
1. CX-10 液 7/7/31D:10% [日本カバイド工業]	ゴマリ	適用性 継続 (自社)	自社試験 (3)	ねらい 休眠打破による開花促進 立木全面散布 休眠覚醒期 15倍希釈 <300L> 30倍希釈 <300L> 7.5倍希釈 <300L> (倍量葉害区)	摘葉後1週間を目安に散布し、散布後1週間後に被覆、さらに1週間後から20℃に加温する ・散布時期、濃度による効果差、開花時期、開花数(率)、葉害発生率の調査を行う	実・継	実) [ゴマリ]; 休眠打破による開花促進 ・休眠覚醒期 ・全面散布 ・30倍希釈 ・散布水量300L/10a 継) ・15倍処理での効果、葉害の確認
2. NGR-081 水溶液 7/7/31D:0.01% [日本農業]	カーネーション	適用性 継続	広島 長崎 (2)	ねらい 発根促進効果(挿し穂基部・全体浸漬) 挿し穂基部浸漬 定植前 10mL/1L 処理時間:10秒, 1時間 50mL/1L 処理時間:10秒, 1時間 挿し穂全体浸漬 定植前 1mL/1L 処理時間:10秒, 1時間 5mL/1L 処理時間:10秒, 1時間 対) オキシベロ液剤 挿し穂基部浸漬 定植前 1000mL/1L 処理時間:5秒 5mL/1L 処理時間:24時間	挿し芽の最長根長、根重、発根数、発根率および定植後の生育への影響を調査する ・ミスト散水で管理を行う	実・継	実) [カーネーション]; 発根促進 ・定植前 ・挿し穂全体浸漬 1~5mL/水1L (0.1~0.5ppm) 1時間 継) ・基部浸漬処理での効果、葉害の確認
	カーネーション	適用性 継続 (自社)	自社試験 (1)	ねらい 発根促進効果、品種間での葉害検討 挿し穂基部浸漬 定植前 10mL/1L 処理時間:10秒, 1時間 50mL/1L 処理時間:10秒, 1時間 挿し穂全体浸漬 定植前 1mL/1L 処理時間:10秒, 1時間 5mL/1L 処理時間:10秒, 1時間	挿し芽の最長根長、根重、発根数、発根率および定植後の生育への影響を調査する ・ミスト散水で管理を行う		確認 ・全体浸漬10秒処理での効果、葉害の確認
	サトウ	適用性 継続	福岡 鹿児島 (2)	ねらい 発根促進効果(挿し穂全体浸漬) 挿し穂全体浸漬 定植前 1mL/1L 処理時間:10秒, 1時間 5mL/1L 処理時間:10秒 対) オキシベロ液剤 挿し穂全体浸漬 定植前 5mL/1L 処理時間:10秒	挿し芽の最長根長、根重、発根数、発根率および定植後の生育への影響を調査する ・挿し芽を冷蔵保存したかどうかを記録する	実・継 (従来とおり)	実) [サトウ]; 発根促進 ・定植前 ・挿し穂基部浸漬 10~50mL/水1L (1~5ppm) 10秒~1時間 ・挿し穂全体浸漬 5mL/水1L (0.5ppm) 10秒~1時間 継) ・全体浸漬1mL/水1L処理での効果、葉害の確認

G. 平成22年度 春夏作分 花き関係 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容
1. NGR-081 水溶液 7/7/31D:0.01% [日本農業]	カーネーション	適用性 継続	栃木 長崎 (2)	ねらい 挿し穂基部浸漬 挿し穂基部浸漬 定植前 10mL/1L : 処理時間:10秒, 1時間 50mL/1L : 処理時間:10秒, 1時間 挿し穂全体浸漬 定植前 1mL/1L : 処理時間:10秒, 1時間 5mL/1L : 処理時間:10秒, 1時間 対) オキシベロ液剤 挿し穂基部浸漬 定植前 1000mL/1L 処理時間:5秒 対) オキシベロ液剤 挿し穂基部浸漬 定植前 5mL/1L 処理時間:24時間	ミスト装置を備えた施設で実施する	—	(H22秋冬作判定参照)